BMW GROUP
Corporate Communications

2023 年 11 月 7 日

BMW X1 が、2023-2024 日本カー・オブ・ザ・イヤーにおいて、栄えある 10 ベスト・カーに選出

BMW グループからの 10 ベスト・カーの選出は 14 年連続

BMW X1 が、一般社団法人「日本カー・オブ・ザ・イヤー」実行委員会（実行委員長: 加藤哲也）主催の 2023-2024 日本カー・オブ・ザ・イヤーにおいて、並みいる強豪をおさえ、栄えある 10 ベスト・カーに選出された。

2023-2024 日本カー・オブ・ザ・イヤーは、2022 年 11 月 1 日から 2023 年 10 月 31 日までに発表または発売された多くの国産車、輸入車が選考対象となるが、BMW X1 は一次選考において、上位 10 モデルとなる 10 ベスト・カーの栄冠に輝いた。

BMW グループにおいては、11 年前の 2012-2013 日本カー・オブ・ザ・イヤーにおいて、BMW 3 シリーズが輸入車の頂点となるインポート・カー・オブ・ザ・イヤーに輝いており、また、8 年前の 2015-2016 日本カー・オブ・ザ・イヤーにおいても、BMW 2 シリーズ アクティブ ツアラー/グラン ツアラーが、インポート・カー・オブ・ザ・イヤーに輝いている。
さらに、3 年前の 2020-2021 日本カー・オブ・ザ・イヤーにおいては、最新モデルの BMW 3 シリーズ セダンが輸入車の頂点となるインポート・カー・オブ・ザ・イヤーに輝いている。

また、9 年前には BMW i3 がイノベーション部門賞（現: テクノロジー・カー・オブ・ザ・イヤー）に、7 年前には BMW M2 がエモーショナル部門賞（現在は廃止）に、5 年前には BMW X2 がエモーショナル部門賞（現在は廃止）に、2 年前には BMW 4 シリーズがデザイン・カー・オブ・ザ・イヤーに、昨年には BMW iX がデザイン・カー・オブ・ザ・イヤーに輝いており、BMW グループの製品は、過去 14 年の内、インポート・カー・オブ・ザ・イヤーを含め、メジャーな賞を 8 つも受賞している。

BMW グループにおける過去 14 年の 10 ベスト・カー受賞歴

- 2010-2011 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW 5 シリーズ
- 2011-2012 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW 1 シリーズ
- 2012-2013 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW 3 シリーズ
- 2013-2014 日本カー・オブ・ザ・イヤー: MINI ペースマン
- 2014-2015 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW i3
- 2015-2016 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW 2 シリーズ アクティブ ツアラー/グラン ツアラー
- 2016-2017 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW M2 クーペ
- 2017-2018 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW 5 シリーズ
- 2018-2019 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW X2

- 2019-2020 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW 3 シリーズ セダン
- 2020-2021 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW 2 シリーズ グラン クーペ
- 2021-2022 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW 4 シリーズ
- 2022-2023 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW iX
- 2023-2024 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW X1

BMW グループにおける過去 14 年の受賞歴
インポート・カー・オブ・ザ・イヤー
- 2012-2013 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW 3 シリーズ
- 2015-2016 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW 2 シリーズ アクティブ ツアラー/グラン ツアラー
- 2019-2020 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW 3 シリーズ セダン

イノベーション部門賞（現: テクノロジー・カー・オブ・ザ・イヤー）
- 2014-2015 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW i3

エモーショナル部門賞（現在は廃止）
- 2016-2017 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW M2 クーペ
- 2018-2019 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW X2

デザイン・カー・オブ・ザ・イヤー
- 2021-2022 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW 4 シリーズ
- 2022-2023 日本カー・オブ・ザ・イヤー: BMW iX

BMW X1 について
BMW X1 は、武骨な SUV とは明確な一線を画す、オンロード走行性能を高めた SAV という革新的なコンセプトを持つプレミアム・スモール・コンパクト・セグメントのモデルの 1 つであり、他の BMW X モデル同様に、様々な特長を備えながら、特に、高いアイ・ポイントがドライブ時に安心感をもたらすセミ・コマンド・シート・ポジション、開放感のあるインテリア・スペース、多彩な収納機能、自由自在にアレンジ可能なリア・シートなど、アクティブなライフスタイルにも柔軟に対応する使い勝手の良さと、BMW ならではの俊敏で爽快な走りを兼ね備えた、プレミアム・スモール・コンパクト・セグメント唯一の SAV である。現行モデルの BMW X1 は、誕生から第三世代目に進化しており、外装、内装共に、どの角度から見ても力強くもモダンで、シンプルながらも洗練された印象を与えている。BMW カーブド・ディスプレイの採用や、iDrive コントローラーの廃止など、ユーザー・インターフェースにおいても、大幅なデジタル化が行なわれている。さらに、BMW スモール・コンパクト・セグメント初の電気自動車 BMW iX1（アイエックスワン）を、ラインアップしている。

日本カー・オブ・ザ・イヤーについて
「日本カー・オブ・ザ・イヤー」は、日本のモータリゼーションの発展とコンシューマーへの最新モデルおよび最新技術の周知を目的として、1980 年に創設された。
現在、一般社団法人 日本カー・オブ・ザ・イヤーが構成する日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会により

運営されている。

選考対象となるクルマは、前年の 11 月 1 日より当年の 10 月 31 日までに日本国内において発表された乗用車で、60 名を上限とした選考委員の投票によって決定される。
また、その年を代表するクルマとなる「日本カー・オブ・ザ・イヤー」が日本メーカー車だった場合、海外メーカー車でもっとも多く得票したクルマに「インポート・カー・オブ・ザ・イヤー」が与えられる。

昨年までは、さらに 4 つの部門賞、「デザイン・カー・オブ・ザ・イヤー」、「テクノロジー・カー・オブ・ザ・イヤー」、「パフォーマンス・カー・オブ・ザ・イヤー」、「K CAR オブ・ザ・イヤー」が設けられていたが、本年からは 2 つの部門賞が廃止され、現在の部門賞は、「デザイン・カー・オブ・ザ・イヤー」と「テクノロジー・カー・オブ・ザ・イヤー」の 2 つである。

1980 年の創設以来「日本カー・オブ・ザ・イヤー」は、文字どおり日本を代表する"クルマの賞典"として、世界からも高く評価されている。

本件に関する読者および視聴者からのお問合わせ先:
BMW カスタマー・インタラクション・センター
フリーダイヤル 0120-269-437
受付時間: 平日 9:00-19:00、土日祝 9:00-18:00
BMW ウェブサイト: http://www.bmw.co.jp